

## B2 液体トナー印刷機 MJP の高品質モデルも

(株)ミヤコシ(宮腰巖社長)は、drupa2012 で過去最大規模となるブースを確保し、リヨービ(株)(浦上彰社長)と共同開発した B2 判液体トナー方式デジタル枚葉印刷機と、高解像度インクジェットプリンタ「MJP シリーズ」のハイクオリティモデル「MJP20MX-7000」を発表する。(ホール 9、ブース A04)

### 【B2 判液体トナー方式デジタル印刷機】

デジタル印刷機とオフセット印刷機の両社のメリットを兼ね備えた「新方式の印刷機」をコンセプトに、リヨービと共同開発したデジタル枚葉 4 色印刷機。

ミヤコシが持つ高解像度の超微粒子液体トナー電子写真技術と、リヨービが持つオフセット枚葉印刷機で培った高速用紙搬送技術を融合することで、B2 判用紙(最大サイズ 788 × 600mm、最大紙厚 0.4mm)で毎時 8000 枚の高速印刷を実現。超微粒子液体トナーを感光ドラムから用紙へオフセット転写させることで、1200dpi という高解像度で繊細な印刷表現が可能となっている。

1~2 ミクロンという超微粒子液体トナーは、トナー層の薄膜化が可能で、紙が従来持つ光沢を損なうことなく印刷できるほか、折り加工時の悪の問題も軽減できるというメリットがある。

さらに、超微粒子液体トナーは定着までに必要なエネルギーが少ないこと、圧胴式の「グリッパ-用紙搬送システム」採用によるオフセット同様の見当精度、さらに 1 色ワンタワーの機械構成などが高速化に大きく寄与している。

小ロットのカタログ、ポスター、パッケージなどの印刷用途に加え、高品質な大判のバリエブル印刷もターゲットとしており、drupa2012 における反応を見極め、2013 年度中を目処に両社それぞれのブランドで発表する計画。

### 【MJP20MX-7000】

1200 × 1200dpi の高解像度のプリントヘッドを搭載したロール to ロールのインクジェットプリンタ。プリントタワー中に CMYK4 色+特色 4 色のプリントヘッドが実装でき、最大で片面 8 色を両面印字できる。

さらに、新開発の水性顔料インクを使用することで直接グロスコート系の用紙に下地処理なしで印字できる。

1200dpi という高解像度にすることで、ドロップサイズを小さくでき、従来水性インクジェットプリンタの弱点とされていた「にじみ」や「裏抜け」の問題をカバーできるとし、同社では「グラフィックアーツ系のアプリケーションにも対応可能な高解像度インクジェットプリンタ」と位置づける一方、ハイスピードモードでは最高速度 320m/分で印字でき、トランザクションや DM 印刷の高速化ニーズにも対応可能。A4 サイズのアプリケーションを幅方向 2 面付けで印刷した場合、13 万枚/時処理できる。

さらに、従来の MJP では装置の駆動側に付帯装置があったが、同機ではプリントタワー内に格納することで省スペース化を図っている。

同社では年内の発売に向けて準備を進めていく考え。

(2012 年 04 月 15 日 印刷ジャーナル 掲載)